**Ⅱ．社会科学への誘い**

1. 社会科学を学ぶこと
	* パラダイム
	* アイデンティティー
2. パラダイム　(Paradigm)
	1. トーマス・クーン

「実務家が世界をみる際に用いられる情報枠組みと規則を確立する『一つの受け入れられたモデルないしパターン』」

* 1. ジョエル バーカー

「情報を収集し、調査と実践を共通の目標に向ける際の強力なメカニズム」

1. パラダイムの観点
	* 1. 新しいパラダイムはいつ現れるのか？
		2. どんな人がパラダイムを変えるのか
		3. パラダイムを変える人のあとを最初に追うのは誰か？
		4. なぜそうするのか？
		5. パラダイム・シフトは、その渦中にいる人にどんな影響をあたえるか
2. 時系列で見た社会変化と個人
3. パラダイムを予感させるキーワード
* 地域主義の台頭－リージョナリズム
* 世界的合意形成の困難さ－ G８、G20、WTO、ポスト京都議定書
* 自由市場主義　VS.　国家市場主義：イアン・ブレマー（ユーラシア・グループ代表）
* メガ多国籍企業の存在
* NGO、市民運動の活性化
* 民族紛争、宗教対立の複雑さ
* AI,IoT…
* 仮想通貨、ブロックチェーン…
1. アイデンティティー　*(Identity)*
* 歴史における自己の存在性　⇒歴史の創造に主体的にかかわろうとする自我
1. アイデンティティーの確立（エリクソン）
	1. 主体性の確立

自分は何者であるかを問い、自分自身を見つけだすこと

* 1. 同一性

自己と他者および集まりである集団や社会との関係を規定し、自分と自分自身の存在する世界を同一視し、その世界に自己を帰属させこと

1. アイデンティティーの追求（エリクソン）

アイデンティティーをもった個人が歴史の主体的にかかわり、自己および他者ひいては自分が同一視する集団、共同体、社会をおのれが理想とするものへ変革していこうとする強い衝動

1. アイデンティティーと学問

馬場伸也(1980)『アイデンティティーの国際政治学』東京大学出版会

本来あらゆる学問が志向すべきものは、個としての人間の「生」の究極にあるものの探求と、種としての人類の福祉の構築である

1. 職業分類と選択

ロバート・Ｂ・ライシュ『THE WORK OF NATIONS』

* + 1. 地球経済に応じた職業分類
			1. ルーティン・プロダクション・サービス
			2. インパースン・サービス
			3. シンボリック・アナリスティック・サービ

問題発見者、問題解決者、戦略的媒介者

* + 1. シンボリックアナリストのための基礎的能力
			1. 抽象化
			2. 体系的思考
			3. 実験／実証
			4. 共同作業

参考文献

1. トーマス・クーン（1971）『科学革命の構造』みすず書房
2. トーマス・クーン（1987）『本質的緊張』みすず書房
3. ジョエル・バーカー（1995）『パラダイムの魔力』日経BP出版センター
4. ロバート・B・ライシュ(1991)『THE WORK OF NATIONS－21世紀資本主義のイメージ』ダイヤモンド社
5. ロバート・B・ライシュ(2002)『勝者の代償－ニューエコノミーの深淵と未来
6. イマニュエル・ウォーラステイン(1993)『脱・社会科学－19世紀パラダイムの限界』藤原書店
7. ゲイリーハメル(2001)『リーディング・ザ・レボリューション』日本経済新聞